

ウシオの今と未来をお伝えする

P △ R △ I △ S △ M

第48期中間報告書

[2010年4月1日～2010年9月30日]

2010年11月発行

株主・
投資家の
皆さまへ



光のものがたり
えが
光で描く。

CONTENTS

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| 2 光のものがたり | 11 グループトピックス ―ウシオの露光ビジネス― |
| 4 光テクノロジー & フロンティア | 12 連結決算 |
| 6 株主の皆さまへ | 14 株式の状況 |
| 8 第48期第2四半期の事業概況 | 15 会社概要 |

USHIO

ウシオ電機株式会社

光で描く。 古くて新しい、フォトリソグラフィ

わたしたちの生活に深く根づいているパソコンや携帯、ゲーム機や家電、自動車…。これらに欠かせないデバイス*や基板の製造では、写真の現像技術を応用した「フォトリソグラフィ」による、微細な電子回路パターン形成技術が用いられています。

※ ある特定の機能を持った電子部品の総称。パソコンなどの電子機器や周辺機器などを含めることもある。



懐かしの日光写真。

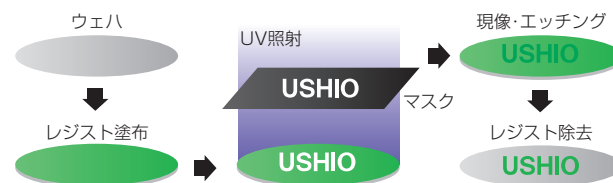
一昔前に、雑誌の付録や文具店などで販売されていたオモチャで、アニメのキャラクターなどが描かれた原版(イラストは白黒反転している)と印画紙を重ね合わせ、厚紙でできた箱にセット。それを外にしばらく置いておくと、光が原版を通して印画紙に当たり、その部分が感光して青くなり、水で洗い流すと原版の絵柄が印画紙に浮かび上がるというもので、これが光を使って対象物に原版の図柄を転写する技術の基本的な仕組みです(写真も基本的には同じ原理で、シャッターが開いた瞬間、レンズに写った風景が一瞬にして感光性のあるフィルムに焼き付けられ、そのフィルムを原版として、印画紙に風景をプリントします)。

デバイスや基板製造のメインプロセス。

この技術は「フォトリソグラフィ」として今やデバイスや基板の製造には欠かせないメインプロセスとなっています。基本的な

原理もほぼ変わらず、印画紙の代わりにウェハなどの基板の上に、レジストと呼ばれる感光性の液体を薄く塗布し、そこに、さまざまな回路パターンが描かれたマスク(原版)を通して紫外線を照射します。紫外線が照射された部分のレジストは変質するため、写真と同じように現像液に通し、不要となったレジストを除去すると、マスクの回路パターンがウェハ上に転写されるという仕組みです。

■ フォトリソグラフィ工程イメージ

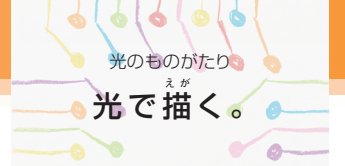


日本列島に、幅1cmレベルの線をビッシリと。

ウェハに転写された回路パターンの凸凹にアルミや銅などの通電性の材料を埋め込むと、そこが電気の通り道である「配線」になります。この配線の幅が細ければ細いほど電子部品の機能中心部となる素子のサイズが小さくなり、チップのコンパクト化が可能になります。逆に、チップのサイズが従来のままの場合には搭載できる素子の数が増え、半導体の多機能化や高性能化が可能になります。その線幅を決定づけるのが光の「波長*」で、より短い波長を出すため、光源は、ランプ(436nmまたは365nm)からエキシマレーザ(248nmまたは193nm)へ、さらに高密度プラズマによるEUV(13.5nm)リソグラフィへと進化しています。

たとえば、直径12インチ(約30cm)のシリコンウェハにフォトリソグラフィを行なう場合、このウェハを直径3,000kmの円とすると、配線の幅は1cm台になります。この、ちょうど択捉島から与那国島まで日本列島がスッポリ入る大きさに対し、幅わずか1cmの線を、それこそ無数に描き、さらにそれを多色刷の版画のように何層にも重ね上げ、複雑な電子回路を作り上げていくのが「フォトリソグラフィ」なのです。

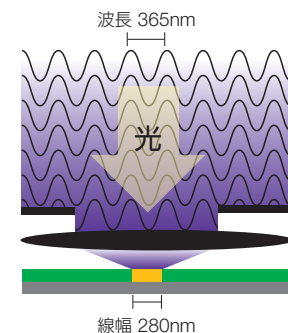
※ nm(ナノメートル)=10億分の1メートル



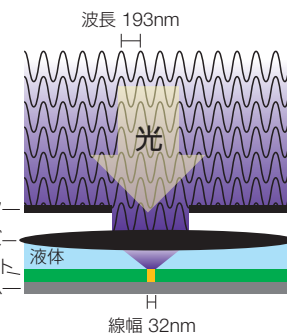
■ 光源別フォトリソグラフィイメージ

※波長間の比率等は正確ではありません。

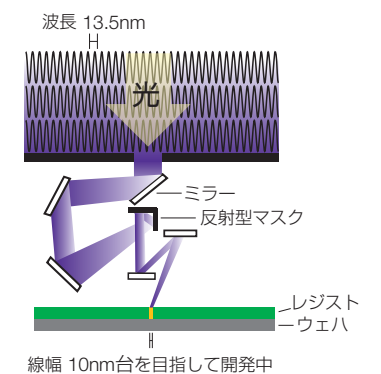
[超高压UVランプの場合]



[ArFレーザ(液浸)の場合]



[EUV(極端紫外光)の場合]



世界唯一のメーカー。

ウシオは、IC(集積回路)の製造がはじまった1960年代からフォトリソグラフィ用ランプを開発、提供してきました。そして現在、ウシオグループは世界唯一、最先端半導体リソグラフィ用光源であるKrFレーザやArFレーザ、そして次世代半導体製造用光源であるEUVまで、フォトリソグラフィ用光源の全てを手掛けています。

しかし、ウシオが得意としているのは「光源技術」だけではありません。ウシオはさらに、レンズやミラーなどの「光学技術」、基板を正確に搬送し、位置合わせを行なう「アライメント技術」、そしてこれらをコントロールする「ソフトウェア技術」といった主要技術を自社で開発し、それらを搭載した露光装置を提供する「光の装置メーカー」でもあるのです。

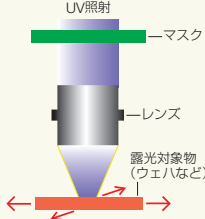
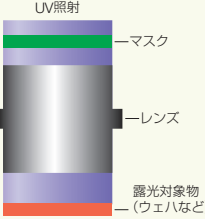
「あると便利」から、「なくてはならない」へ。 変化しつつある、露光装置へのニーズ

デジタル化があらゆる分野にいざなりつつある今日、用途や機能の多様化が進む半導体の製造現場のニーズに変化が起きています。これまで、一定の規格にそってつくり、パソコンや携帯、ゲーム機といった「あると便利」なものに搭載されていた半導体が、地球環境や医療・健康、食料や新素材開発など、わたしたちがこれから生きていく上で「なくてはならない」ものに搭載されはじめたのが、その背景にあります。

露光装置にもさまざまなタイプが。

一言に「露光装置」といっても、そのタイプはさまざまです。最終的につくられるデバイスに要求される機能や性能、生産量やトータルコスト、使用するワークの種類など、あらゆる点を考慮し、それぞれに最適な露光装置が使い分けされています。

■ 主な露光装置の方式と特徴

タイプ	ステッパ	一括投影露光	コンタクト露光 プロキシミティ露光
	 露光対象物を前後左右に移動させ、分割を繰り返し(ステップ&リピート)ながら露光。マスクに描かれたパターンを縮小し、分割して投影するため、他方式と比べて微細加工がしやすい。	 ワーク全面に対し、一括して露光するため、スループットが高い。また、さまざまな種類のワークに対応しやすい上に、ワークの歪みや反りなどに対応できるため、生産性が安定している。	 レンズがなく、マスクとワークを接触させて露光するというシンプルな構造のため、低価格。双方の距離が若干空いている(半導体の場合は、50～100μm程度)のが「プロキシミティ露光」タイプ。
ウシオ製品例	 半導体製造用 ステッパ&リピート投影露光装置「UX-7」	 LEDチップ製造用 一括投影露光装置「UX4-LEDs」*	 フレキシブルプリント基板用 プロキシミティ露光装置「UFx-3000」

* 世界初、φ6インチ一括投影方式のLEDチップ製造用露光装置。詳細はP11へ⇒

	ウェハ	プリント基板	フレキシブルプリント基板(FPC)	ガラス基板
露光対象物	シリコンやサファイア、または窒化ガリウムなどの化合物が材料で、φ12インチ以下が主流。パソコンのCPUやメモリ、LEDやMEMSセンサ、パワー半導体、太陽電池など、さまざまなデバイスに使用されている。	ウェハなどからつくられたICチップなどの部品同士や、外部機能と部品を結ぶインターフェイスとなる板状の基板。携帯やゲーム機、パソコンなど、ほぼすべての電子機器に搭載されている。	プリント基板を薄いフィルム状にしたもの。機能はプリント基板と同じだが、薄く、折り曲げられるため、折りたたみ式携帯など製品の可動部や屈折部に使用でき、製品の小型化を可能にする。テープの横幅は500mm以下が主流。	液晶ディスプレイやプラズマディスプレイ、電子ペーパー、タッチパネルなど、背後からの光の透過が必要な表示デバイスに用いられる。最も大きいものは液晶用で、横2,850mm×長さ3,050mm、厚さはわずか0.7mm程度。

求められる、多種多彩なグリーンデバイスへの対応。

近年、何千万種類の遺伝子を一度に調べ、病気の早期発見や食品開発・環境汚染調査などに使われる「バイオチップ」、次世代エネルギーとして普及が進む「太陽電池」、省エネ効果が非常に高い「LED」、家電や自動車に搭載され、消費電力を監視・制御することで環境に貢献する「パワー半導体」といった、健康や環境への対応を目的とした、いわゆる「グリーンデバイス」の生産が増えています。

これらの製造メーカーでは、デバイスや素材を開発・改善し、家電製品やシステムを組み合わせることで、世界規模で進む“エコ&健康社会”の実現に取り組もうとしています。そこで必要となるのが、用途や目的に応じて柔軟に構築・組み替えが可能な生産体制の確立であり、中でも、もっとも重要な装置の一つが、ウシオが手掛ける「露光装置」なのです。

ウシオだから、できたこと。

このような製造メーカーのニーズに応えつつ、生産性や品質を向上させ、コストパフォーマンスに優れた製造ラインの構築をいかにサポートしていくか。これは、ウシオのような露光装置メーカーにとっても重要なテーマです。この課題に対するウシオの答えのひとつが、装置のプラットフォームの共有化と、レンズやランプハウスなどの主要パーツのモジュール化です。

これによりデバイス・基板製造メーカーでは、目的や用途にあわせ、必要な時に必要な性能を持ったモジュールに交換することで、露光装置の性能を向上させることが出来ます。さらに、ダウンタイム(装置を止めている時間)も最小限で済むため、大幅な生産性の向上とコストダウンにくわえ、マーケットニーズに即応したものの作りが可能になるのです。



株主の皆さまにおかれましては、
ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
また、日ごろより格別のご支援を賜り、
厚く御礼申し上げます。
ここに、第48期中間(2010年9月)報告書「PRISM」
をお届けし、当第2四半期連結累計期間における
ウシオグループの事業環境や
各事業の概況、および今後の取り組みなどについて
ご報告申し上げます。

世界的な需要回復で大幅な増収増益

当第2四半期連結累計期間(2010年4月1日～2010年9月30日)は、国内では輸出の回復や各種政策効果によって企業収益の改善が続き、米国、欧州経済においても景気は持ち直し、アジアにおいては、中国、インドなどの内需を中心に引き続き経済が拡大するなど、総じて回復基調の中で推移しました。
当社では、当第2四半期の収益に最も貢献した映像分野の好調をはじめ、液晶・半導体分野の需要増加、設備投資の回復など世界的需要回復の好機を捉え、売上高を前年同期比26.7%増の704億3千2百万円としました。また、生産性の向上や製造コストの低減、経費の圧縮、海外展開強化に向けた販売体制の整備・拡充、海外生産シフトの促進など、引き続き高収益体質への改善を継続した結果、営業利益は前年同期比236.1%増の78億4千万円、経常利益は前年同期比146.9%増の84億2千4百万円、四半期純利益は前年同期比90.1%増の57億7千万円となり、大幅な増収増益となりました。

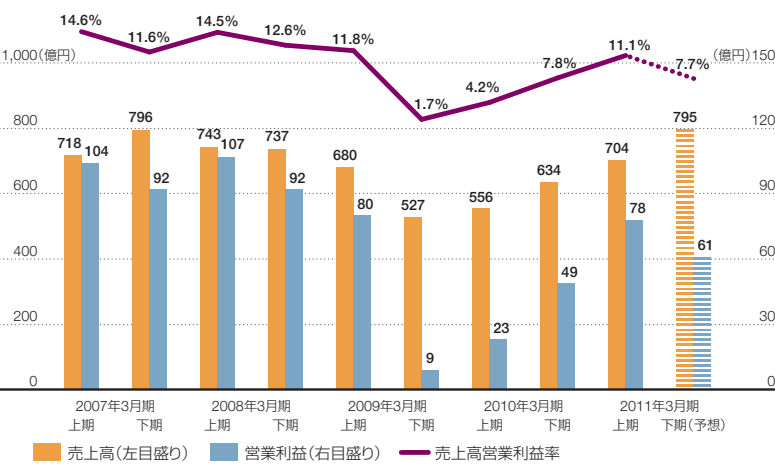
デジタルシネマプロジェクタ市場の急拡大

プロジェクタ関連市場では、世界的な3D映画の普及によって、引き続き世界各地からデジタルシネマプロジェクタ(DCP)の需要が増加しています。今後も市場の拡大が予測されることから、現在カナダにある生産拠点に加え中国の深圳でも生産を開始し、順次増産していく計画です。
またDCPの急速な拡大に伴いDCP向けクセノンランプの販売も増加しており、DCP、ランプともに当社のマーケットシェアは急速に拡大しています。

液晶・半導体市場を背景に回復

液晶関連市場では、世界的な液晶テレビやPCモニタ向け需要の増加を背景として、各液晶パネルメーカーの設備稼働率は総じて高水準で推移しましたが、これらの急速な回復の反動による調整局面に入っています。また、半導体市場でもスマートフォン

半期業績推移



やメディアタブレットなど新規分野の需要増加により、設備の稼働率向上と好調な設備投資がみられたものの、薄型テレビやPCなどの既存分野向け需要の減速により、価格を横ばいまたは下落させています。
そのような状況の中、当社はリプレイスランプおよび光学装置の需要回復が売り上げ増加に大きく寄与したほか、最先端半導体露光用エキシマレーザを扱うギガフォンの出荷が予想以上に伸びています。

光学装置、新機種の拡大

2010年7月、LED用露光装置の新製品を市場投入しました。LED生産に用いられる6インチのサファイアウェハに対し一括投影露光できる世界で唯一の装置として、国内外から好評を得ています。すでに当期から売り上げに寄与し、今後もさらなる拡大を見込んでいます。また、液晶モニタの性能向上に欠かせないものとして定着しつつある光配向関連製品も伸びており、中国での大型プロジェクト受注が確定しています。

今後の見通しについて

今後は、円高や調整局面にある液晶・半導体関連市場など不透明感はあるながらも、光学装置をはじめとする各種新製品の投入効果が期待でき、また、DCPを中心とした映像機器も堅調に推移するものと考えています。当社グループの重点事業である「映像・画像事業」「高密度実装事業」「露光事業」を中心に、光源・光学技術における強みを最大限活用し、グループ全体のさらなる事業基盤強化を図ってまいります。

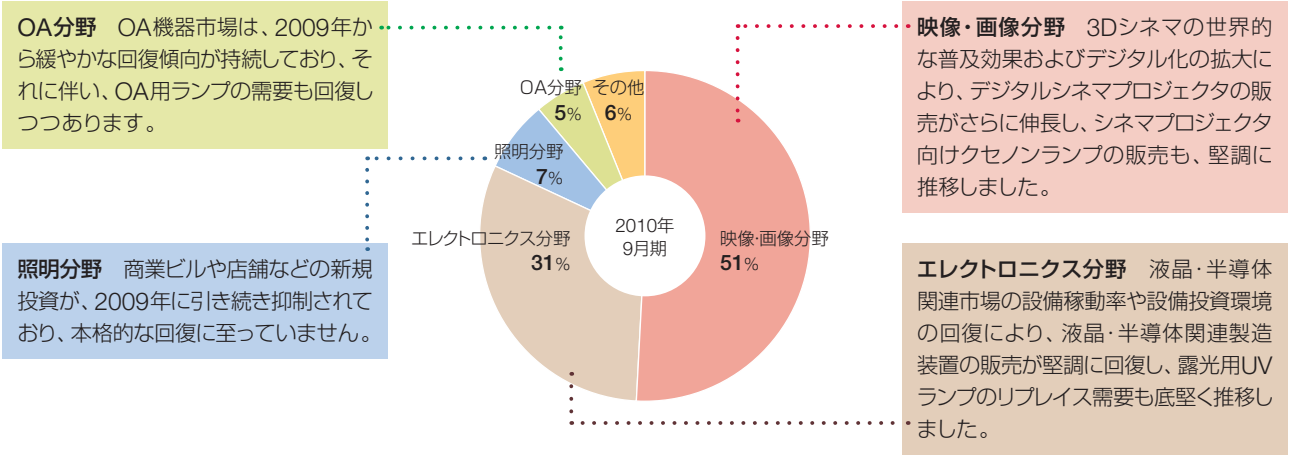
株主の皆さまには、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2010年11月
代表取締役社長・CEO

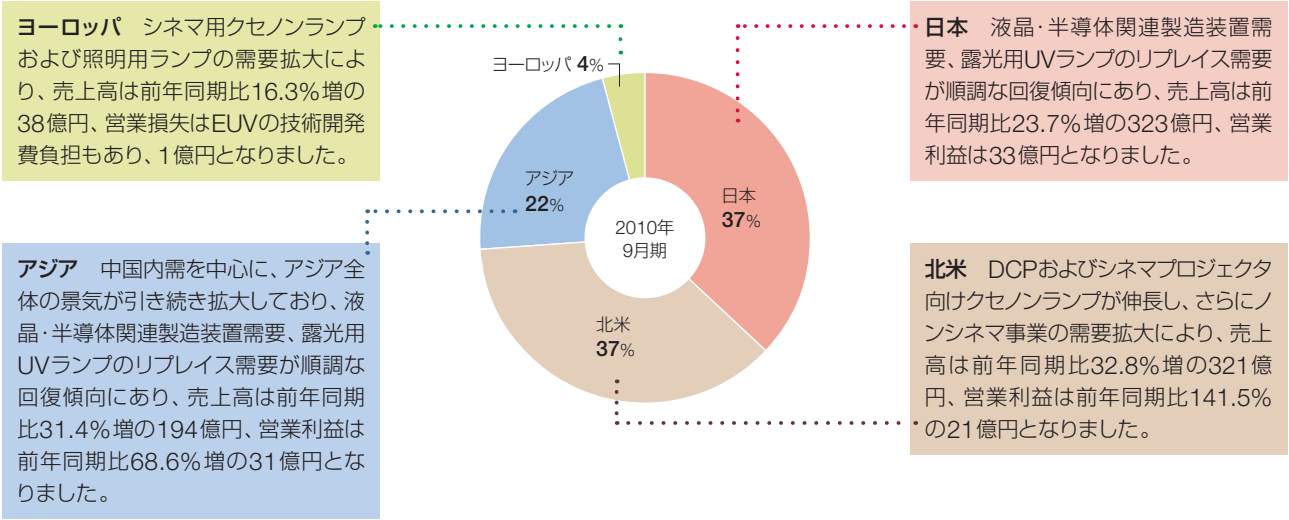
菅田史朗

ウシオ At a Glance

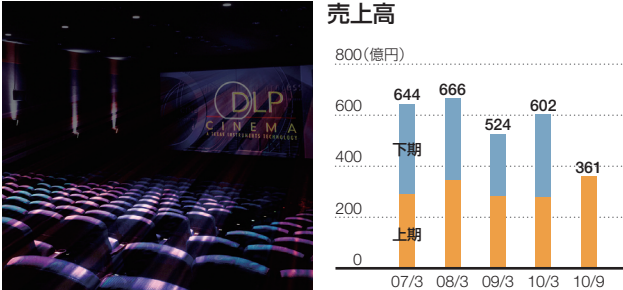
分野別売上高構成比



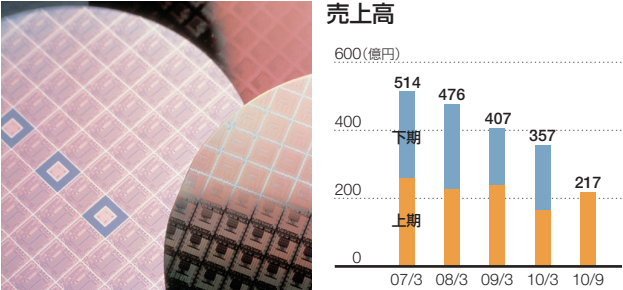
所在地別売上高構成比



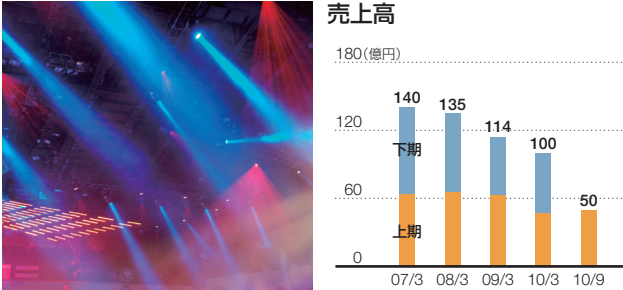
映像・画像分野 エレクトロニクス分野 照明分野 OA分野



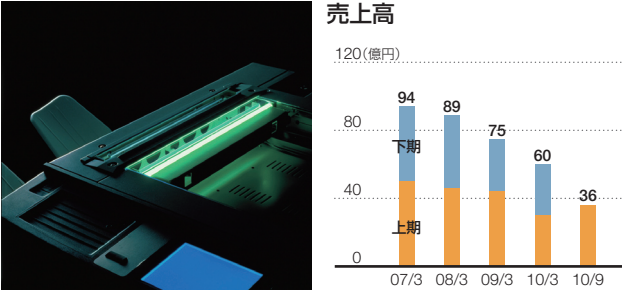
主なグループ会社 CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS, U.S.A., INC.
CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS, CANADA INC.
株式会社ジーベックス
クリスティ・デジタル・システムズ日本支社



主なグループ会社 ギガフォトン株式会社
XTREME technologies GmbH



主なグループ会社 ウシオライティング株式会社
株式会社ウシオスペース
BLV Licht-und Vakuumtechnik GmbH

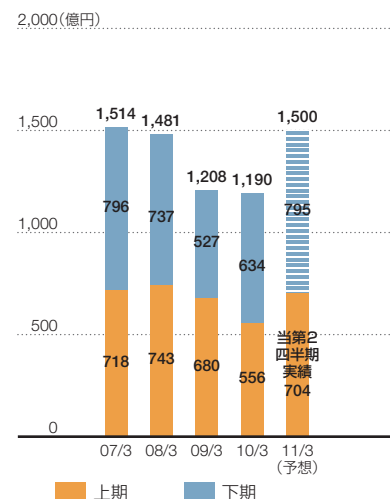


主なグループ会社 USHIO HONG KONG LTD.
USHIO (SUZHOU) CO., LTD.

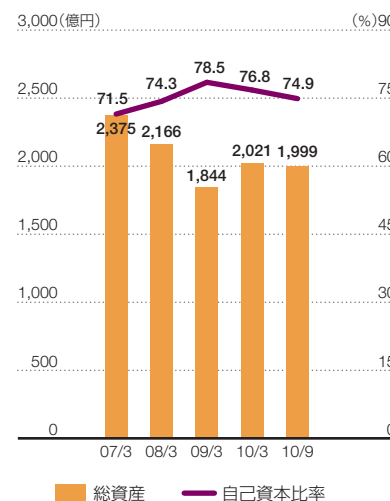
*所在地別売上高および営業利益は、セグメント間の内部売上高または振替高を含んだ数値を記載しています。
また、記載金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

数字で見るウシオ (連結ベース)

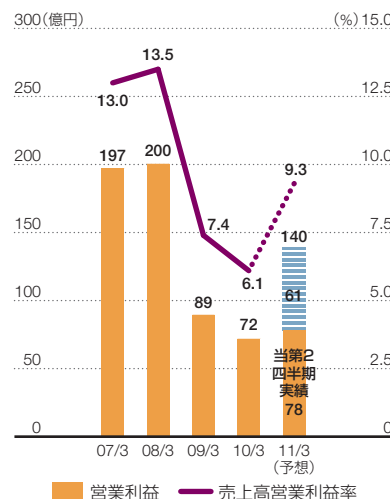
売上高



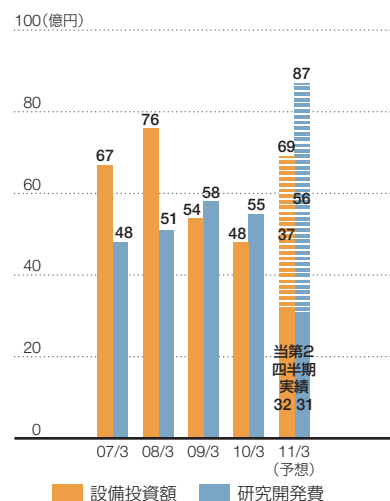
総資産／自己資本比率



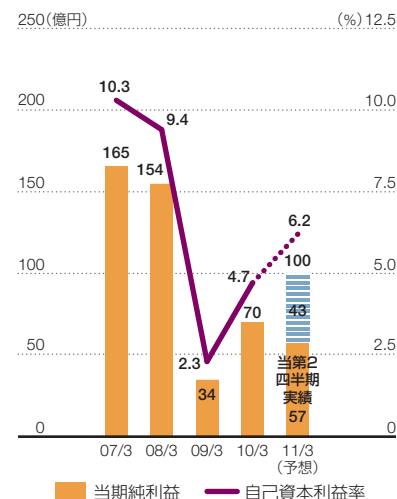
営業利益／売上高営業利益率



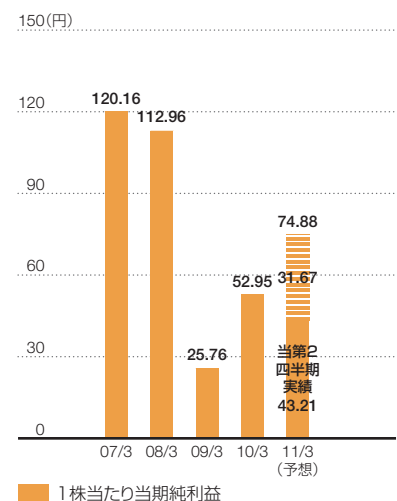
設備投資額／研究開発費



当期純利益／自己資本利益率(ROE)



1株当たり当期純利益



※数字はすべての表示数未満の位を切り捨てて記載しております。

世界初、大口径ウェハ一括投影方式のLEDチップ製造用露光装置

近年のLEDの急速な普及と低価格化に対応するため、LEDチップメーカ各社では、チップのもととなるウェハのサイズを大きくし、ウェハ1枚から取れるチップ数を増やすことで、生産性の向上とコストダウンを図ろうとしています。

しかし、ウェハの大判化に伴う反りや歪みの拡大により、従来使用されていたステッパやコンタクト露光装置では成膜不良などによる歩留まりの低下が発生するほか、ウェハサイズ変更による設定の変更や機種・パーツ交換による新規コストやダウンタイムが発生するなど、LEDの生産性向上は技術・コストの両面で課題がありました。

これに対しウシオは、プラットフォーム化された自社の露光装置に、LEDチップ製造用として最適化したレンズや光源、搬

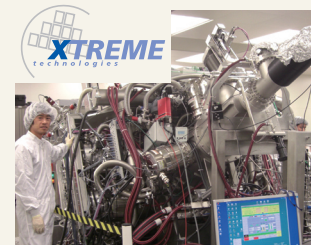
送技術などの各モジュールを搭載した「UX4-LEDs」を開発し、2010年7月より販売を開始しました。「UX4-LEDs」は、φ6インチの大判ウェハへの一括露光を可能にし(従来は2～4インチ)、1台で複数サイズのウェハにも対応できるほか、自動化も可能で、従来ステッパに比べスループット300%向上、ランニングコスト80%削減を実現しました。



フィリップスからEUV事業譲受。EUV光源の開発・生産本格化へ

2010年4月、ウシオは、次世代半導体露光用EUV光源の研究・開発会社であるXTREME technologies GmbHを通じ、Philips Xtreme UV GmbHのEUV関連事業を全て譲り受けることで基本合意しました。

次世代半導体の製造には、波長13.5nmのEUV光源が不可欠であり、半導体メーカや露光装置メーカからはその量産が待たれています。今回の合意により、ウシオは、DPP方式のEUV光源の開発・製造をウシオグループであるXTREME technologies 1社に集約させ、EUV光源の開発を一層加速し、生産を本格化していきます。



アドテックエンジニアリングと資本・業務提携。露光装置ラインナップのさらなる強化へ



2010年5月、ウシオは、コンタクト露光装置の開発に定評のある株式会社アドテックエンジニアリングとの資本・業務提携に合意しました。

これにより、ウシオが従来から強みとしている投影露光装置と合わせ、プリント基板用露光装置市場における競争力の強化と業容のさらなる拡大を目指しており、部材の共同調達によるコストダウンならびに両社固有の技術を活用することで、既存製品の性能向上や新製品開発など、シナジー効果の創出を図ります。

貸借対照表(要約)

(単位: 百万円)		
科目	第48期第2四半期 (2010.9.30)	第47期 (2010.3.31)
資産の部		
流動資産	117,514	112,722
現金および預金	37,267	37,865
受取手形および売掛金	33,521	31,482
有価証券	6,780	6,741
たな卸資産	31,125	26,639
その他	8,820	9,993
固定資産	82,393	89,397
有形固定資産	35,104	36,151
建物および構築物	15,691	16,154
機械装置および運搬具	5,271	4,700
土地	8,499	8,579
その他	5,642	6,716
無形固定資産	3,108	3,028
投資その他の資産	44,179	50,217
投資有価証券	42,147	46,440
その他	2,031	3,776
資産合計	199,907	202,119

資産は、前期末比22億1千2百万円減少しました。主な増加要因は、商量の増加に伴う「受取手形および売掛金」および市況回復に向けた「原材料および貯蔵品」の増加であり、主な減少要因は、株式市況低迷による「投資有価証券」および「現金および預金」の減少です。

(単位: 百万円)		
科目	第48期第2四半期 (2010.9.30)	第47期 (2010.3.31)
負債の部		
流動負債	38,807	32,035
支払手形および買掛金	14,638	12,890
短期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)	10,291	7,709
その他	13,877	11,434
固定負債	9,759	13,398
長期借入金	421	1,413
繰延税金負債	5,843	8,211
その他	3,493	3,774
負債合計	48,566	45,434
純資産の部		
株主資本	151,740	148,643
資本金	19,556	19,556
資本剰余金	28,371	28,371
利益剰余金	113,024	109,925
自己株式	△9,211	△9,209
評価・換算差額等	△2,000	6,572
その他有価証券評価差額金	10,402	13,668
為替換算調整勘定	△12,402	△7,096
少数株主持分	1,601	1,469
純資産合計	151,341	156,685
負債および純資産合計	199,907	202,119

負債は、前期末比31億3千1百万円増加しました。主な増加要因は、商量増加に伴い運転資金需要が増したことによる「短期借入金」および仕入れ増加に伴う「支払手形および買掛金」の増加によるものであり、主な減少要因は株式市況低迷による「投資有価証券」の含み益の税金部分である「繰延税金負債」の減少です。

純資産は、前期末比53億4千3百万円減少しました。主な減少要因は、円高による「為替換算調整勘定」および保有投資有価証券の評価減に伴う「その他有価証券評価差額金」の減少です。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書(要約)

(単位: 百万円)		
科目	第48期第2四半期 (2010.4.1～2010.9.30)	第47期第2四半期 (2009.4.1～2009.9.30)
売上高	70,432	55,601
売上原価	45,871	39,100
売上総利益	24,561	16,501
販売費および一般管理費	16,720	14,168
営業利益	7,840	2,332
営業外収益	1,949	1,651
営業外費用	1,364	572
経常利益	8,424	3,412
特別利益	9	5
特別損失	616	92
税金等調整前第2四半期純利益	7,817	3,324
法人税、住民税および事業税	2,544	686
法人税等調整額	△652	△521
法人税等合計	1,891	164
少数株主損益調整前第2四半期純利益	5,926	3,159
少数株主利益	155	124
第2四半期純利益	5,770	3,035

液晶関連市場における需要増を背景に、液晶パネルメーカーの設備稼働率は高水準で推移し、半導体市場では新規分野の需要増加により設備稼働率が上がったため、リプレースランプ、光学装置ともに需要が回復しました。また、プロジェクト関連市場で世界的な3D映画普及などによる需要が継続して増加したため、デジタルシネマプロジェクトおよびリプレースランプの売り上げも好調でした。その結果、売上高は前年同期比26.7%、148億3千1百万円増加しました。

生産性の向上や製造コストの低減、経費の圧縮、海外展開強化に向けた販売体制の整備・拡充、海外生産シフトの促進などに注力し、営業利益で前年同期比236.1%、55億8百万円増加、四半期純利益で前年同期比90.1%、27億3千5百万円増加しました。

営業活動によるキャッシュ・フローの主な内訳は、税金等調整前中間純利益78億1千7百万円、減価償却費30億8千5百万円の発生および仕入債務24億3千3百万円の増加、たな卸資産78億6千5百万円、売上債権37億3千1百万円の増加および法人税等の支払い15億1千7百万円の支出です。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の払戻し125億4千5百万円、短期貸付金の回収9億6千5百万円と、長期貸付金の回収8億4千7百万円、また有価証券の売却および償還7億6千1百万円の収入と、定期預金の預入130億4千9百万円、有形固定資産の取得29億9千1百万円、および投資有価証券の取得12億1千5百万円の支出がありました。

財務活動によるキャッシュ・フローの主な内訳は、短期借入金の純増加23億5千3百万円と、配当金の支払いによる26億7千万円の支出です。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

キャッシュ・フロー計算書(要約)

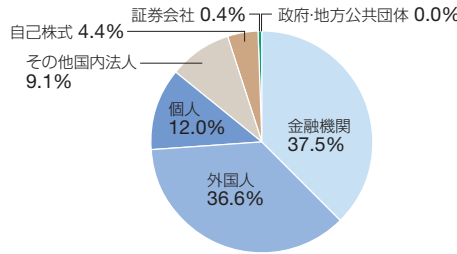
(単位: 百万円)		
科目	第48期第2四半期 (2010.4.1～2010.9.30)	第47期第2四半期 (2009.4.1～2009.9.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,796	9,172
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,279	△9,689
財務活動によるキャッシュ・フロー	△419	△3,412
現金および現金同等物に係る換算差額	△1,604	△558
現金および現金同等物の増減額(△は減少)	△507	△4,487
現金および現金同等物の期首残高	28,595	27,329
連結の範囲の変更に伴う現金および現金同等物の増減額(△は減少)	94	－
現金および現金同等物の第2四半期末残高	28,182	22,842

発行済株式総数 139,628,721株
株主 14,845名

大株主の状況 (200万株以上)		
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	8,381	6.00%
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,663	4.77%
ガバメント オブ シンガポール インベストメント コーポレーション ビー リミテッド	6,498	4.65%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	5,585	4.00%
アールービーシー デクシア インベスター サービスーズ トラスト, ロンドン レンディング アカUNT	4,519	3.23%
朝日生命保険相互会社	4,477	3.20%
オーエム04 エスエスピー クライアント オムニバス	4,448	3.18%
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	3,964	2.83%
株式会社りそな銀行	3,616	2.58%
牛尾治朗	3,201	2.29%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・株式会社りそな銀行退職給付信託口)	3,049	2.18%
ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー	2,616	1.87%
ノーザントラスト カンパニー (エイブイエフシー)		
サブ アカUNT アメリカン クライアント	2,566	1.83%
サジャップ	2,562	1.83%
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカUNT	2,480	1.77%
財団法人ウシオ育英文化財団	2,400	1.71%
メロンバンク エヌエー アズ エージェント フォー イッツ クライアント メロン オムニバス ユーエス ペンション	2,205	1.57%
野村信託銀行株式会社 (投信口)	2,043	1.46%

※ 上記のほか、当社が所有している自己株式6,083千株があります。
※ 大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

株式の分布状況



設立 1964年3月
資本金 19,556,326,316円

役員 (2010年9月30日現在)

代表取締役会長	牛尾 治朗
代表取締役社長	菅田 史朗
取締役	後藤 学
取締役	大島 誠司
取締役	浜島 健爾
取締役	多木 正
取締役	牛尾 志朗
取締役	多田龍太郎
取締役	伴野 裕明
取締役	徳廣 慶三
常勤監査役	中一 進
常勤監査役 (社外)	物江 理
常勤監査役	中山 繁樹
監査役 (社外)	服部 秀一
監査役 (社外)	宮崎 靖亮

従業員数 (2010年9月30日現在)

ウシオ電機本体	1,748名
国内グルー プ計	529名
海外グルー プ計	2,748名
合計	5,025名

グループ会社 (2010年9月30日現在)

ウシオ電機株式会社

本社	東京都千代田区
播磨事業所	兵庫県姫路市
御殿場事業所	静岡県御殿場市
横浜事業所	神奈川県横浜市
東京営業本部	東京都千代田区
大阪支店	大阪市淀川区

国内グループ会社

ウシオライティング株式会社
兵庫ウシオライティング株式会社
筑波ウシオ電機株式会社
株式会社ジーベックス
株式会社ウシオスペックス
ギガフォトン株式会社
日本電子技術株式会社
株式会社エビテックス

他5社

海外グループ会社

北米

- USHIO AMERICA, INC.
- USHIO CANADA, INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS U.S.A., INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA INC.
- CHRISTIE MEDICAL HOLDINGS, INC.
- NECSEL INTELLECTUAL PROPERTY, INC.
- VISTA CONTROLS SYSTEMS, CORP.

欧州

- USHIO EUROPE B.V.
- USHIO FRANCE S.A.R.L.
- USHIO DEUTSCHLAND GmbH
- USHIO U.K., LTD.
- BLV Licht-und Vakuumtechnik GmbH
- Dipl.-Ing. Reinhold Eggers GmbH
- NATRIUM Sp. z o.o.
- XTREME technologies GmbH

アジア

- USHIO HONG KONG LTD.
- USHIO TAIWAN, INC.
- USHIO PHILIPPINES, INC.
- USHIO (SUZHOU) CO., LTD.
- USHIO SINGAPORE PTE LTD.
- USHIO KOREA, INC.
- USHIO SHANGHAI, INC.
- USHIO SHENZHEN, INC.
- TAIWAN USHIO LIGHTING, INC.

他11社

株主メモ

決 算 期	3月31日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
基 準 日	3月31日
	その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。
利益配当金受領	3月31日
株 主 確 定 日	なお、中間配当制度は採用しておりません。
公 告 掲 載 URL	http://www.ushio.co.jp/kokoku
	※やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
1単元の株式数	100株

株式銘柄コード	6925
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電 話 照 会 先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同 取 次 窓 口	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

住所変更、単元未満株式の買取などのお申出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行なう際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主さまにつきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社などで行ないます。確定申告を行なう際の添付資料につきましては、お取引のある証券会社などにご確認をお願いいたします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主さまにつきましても、配当金の支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をされる株主さまは、大切に保管ください。

発行：ウシオ電機株式会社 広報IR室

〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1

TEL: 03-3242-1815 FAX: 03-3245-0589

<http://www.ushio.co.jp>

P R I S M PRISM(プリズム)は透明な光学ガラスでできた多面体で、光を分散・屈折・反射させるときに用います。「PRISM」は、光を柱に事業を展開するUSHIOの今と未来を多面的に取り上げ、株主や投資家の皆さまにお伝える情報誌です。ウシオISMをPRし、理解を深めていただく編集意図もこめて、名づけました。



この印刷物は、環境に優しい再生紙と、大豆インキを使用しています。